

# 豊岡市公共施設再編計画 第2期計画(素案) 概要版

## 1. 基本的事項

### ○ 背景と目的

- ・公共施設の多くが老朽化しており、今後一斉に改修や建替えの時期を迎えることで、多額の財政負担が予測されます。
- ・公共施設の老朽化に伴う財政負担を軽減し、施設サービスの水準を適切に維持するため、施設保有量の最適化を図ります。

### ○ 計画の期間

- ・2026～2035年度までの10年間

### ○ 計画の対象施設

- ・本市が保有する公共施設（約46.7万㎡）
- ・文化財指定の施設、小規模な施設、普通財産は対象外

### ○ 計画改定の視点

- ・地域に必要な機能をできる限り維持して施設保有量を最適化
- ・地域デザインプラン（2022年3月策定）や2025年8月に実施した市民アンケートの結果等を加味

**ポイント** 次世代に負担と責任を先送りしないために  
 公共施設は、公共サービスを提供する手段であり、ハコモノ施設の維持そのものを目的としない

**「あったほうがいい」**

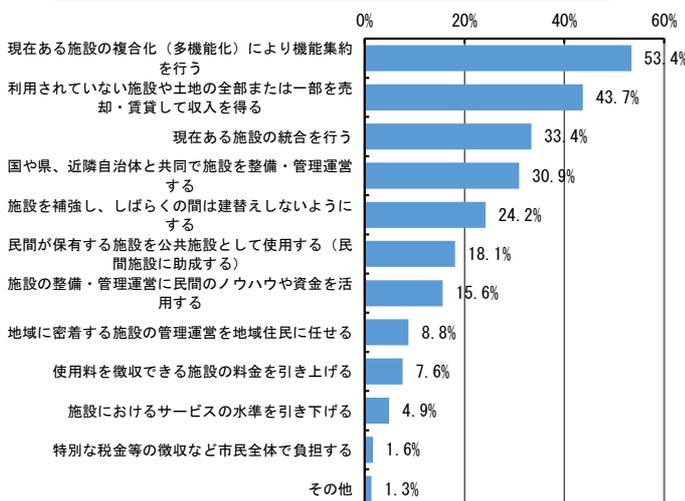
発想の転換

**「本当に必要なもの(機能)を賢く使う」**

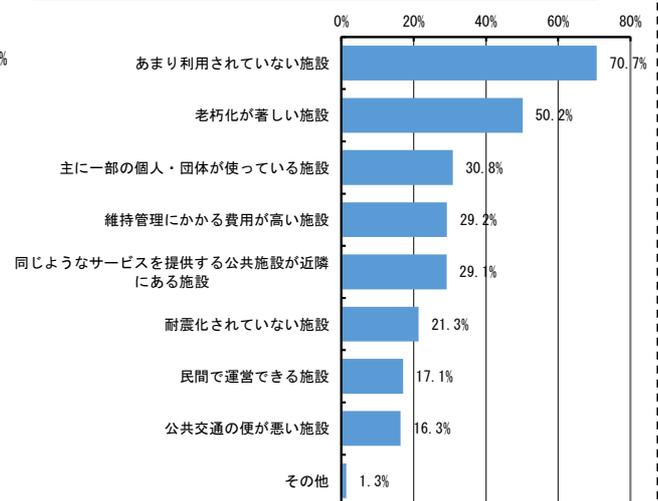
### ○ 市民アンケートの結果（2025年8月 実施）

- ・公共施設の更新費用の負担を減らす方策として、最も支持されたのは「複合化（多機能化）による機能集約」（53.4%）となっています。
- ・公共施設を見直す際には、利用実態（利用者が少ない）や施設の安全性（老朽化が著しい）を重視されています。

公共施設の更新費用の負担を減らす方策



優先的に見直すべき公共施設



## 2. 類型別の個別施設の方向性

<p><b>行政系施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立野庁舎および各振興局庁舎のさらなる有効活用、将来的な施設のあり方検討</li> <li>・消防施設の近隣施設との複合化（多機能化）を検討</li> </ul>	<p><b>市民文化系施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティセンターの利用実態に即した効率的な施設規模への再編を検討</li> <li>・豊岡市民会館の長寿命化・機能向上</li> <li>・将来的な文化施設のあり方を検討</li> </ul>
<p><b>社会教育系施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎と同様に図書館分館のあり方を検討</li> <li>・比較的利用者が少なく規模の大きな博物館・資料館のあり方を検討</li> <li>・城崎温泉交流センターへの機能集約</li> </ul>	<p><b>保健・福祉施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稼働率の低い貸室の見直しや他の施設との複合化（多機能化）を検討</li> <li>・障害者福祉施設の配置・機能の維持</li> </ul>
<p><b>医療施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地医療の将来的な提供のあり方や体制を含め、人口減少や高齢化に対応した施設のあり方を検討</li> </ul>	<p><b>スポーツ・レクリエーション施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の大会機能を維持、学校開放を踏まえたスポーツ活動に必要な施設の確保</li> <li>・観光的な要素が強い施設の民営化、将来的な施設のあり方を検討</li> <li>・城崎温泉交流センターの複合化（多機能化）</li> </ul>
<p><b>産業系施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農業団体などに譲渡</li> <li>・より効果的な運営・利用方法を検討</li> </ul>	<p><b>学校教育系施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」に基づく小中学校の再編（施設一体型小中一貫校としての再編を含む）</li> <li>・持続可能な給食体制の構築</li> </ul>
<p><b>子育て支援施設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」に基づく就学前施設・放課後児童クラブの再編</li> <li>・WACCU TOYOOKA の配置・機能の維持</li> <li>・庁舎等と同様に子育てセンターのあり方を検討</li> </ul>	<p><b>公営住宅・その他（清掃センター・斎場等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来需要を踏まえた効率的な公営住宅の供給</li> <li>・埋立が終了している最終処分場の廃止</li> </ul>

### ● 方向性の分類の定義

<b>建替</b>	：建替え（減築を含む）を行うもの
<b>継続</b>	：現在の施設を継続して使用し、長寿命化のための改修や修繕等（大規模改修の際の減築を含む）を行うもの
<b>継続（要検討）</b>	：現在の施設を継続して使用するが、施設のあり方や複合化（多機能化）等の検討を要するもの
<b>転用</b>	：現在の施設を継続して使用するが、使用目的を変更するもの
<b>移転</b>	：用途を他の施設に移転し、現在の施設の使用を中止するもの
<b>譲渡</b>	：民間事業者、地元自治会等に施設を譲渡するもの
<b>廃止</b>	：用途を廃止し、現在の施設の使用を中止するもの、又は、用途を廃止し、民間事業者、地元自治会等に施設を貸し付けるもの
<b>統合</b>	：同じ用途をもつ複数施設を統合して新規整備するもの、又は、同じ用途をもつ複数施設の統合を検討するもの（現時点では廃止する施設が確定していないもの）
<b>検討</b>	：現時点では個別施設の方向性を示すことが困難な施設であり、施設のあり方や複合化（多機能化）を継続的に検討するもの

個別施設の方向性

	行政系施設	市民文化系施設	社会教育系施設	保健・福祉施設	医療施設
建替	—	コミセン①	—	—	—
継続 (要検討)	立野庁舎、振興局庁舎（城崎、竹野、日高、出石）など	コミセン⑦、城崎市民センター、出石多目的ホール・市民ホール	図書館分館④、歴史博物館、日本・モンゴル民族博物館	健康福祉センター（豊岡、竹野、日高、出石）、長寿園	—
転用	—	—	—	—	—
移転	—	—	城崎文芸館、城崎麦わら細工伝承館	—	—
譲渡	—	集会施設④	—	—	—
廃止	—	椒地域ふるさと生きがいセンター	—	—	—
統合	—	—	—	—	—
検討	振興局庁舎（但東）、消防施設（出張所、駐在所）	コミセン④、城崎国際アートセンター、但東市民センター	図書館分館①、美術館	但東健康福祉センターなど	診療所⑤

	スポーツ・レクリエーション施設	産業系施設	学校教育系施設	子育て支援施設	公営住宅・その他
建替	城崎温泉交流センター	—	義務教育学校①	—	—
継続 (要検討)	竹野 B & G 海洋センター	そば乾燥調製貯蔵施設	—	子育てセンター④	—
転用	—	—	—	幼稚園②	—
移転	—	—	—	放課後児童クラブ②	—
譲渡	神鍋高原キャンプ場	但東地域活性化センター	—	幼稚園②、放課後児童クラブ①	—
廃止	神鍋高原体育館、湯の原温泉オートキャンプ場など		中学校②、小学校③、給食センター①	放課後児童クラブ③	市営住宅⑨、豊岡第2清掃センター
統合	但東中央体育館、資母体育館	—	小学校②	認定こども園②、放課後児童クラブ②	—
検討	竹野北前館、但東自然の郷・やまびこ、但東シルク温泉館、たんたん温泉福寿の湯	木屋町小路	小学校⑥	放課後児童クラブ⑥、子育てセンター①	移住促進住宅①

※丸囲み数字は、施設の数を示しています。

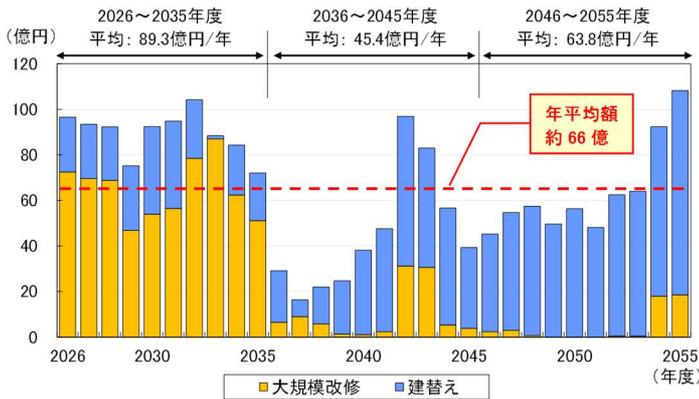
※表中に記載のない公共施設は、「継続」（現在の施設を継続して使用し、長寿命化のための改修や修繕等を行うもの）として位置づけています。

### 3. 更新費用の試算と削減目標

#### ○ 長期的な視点に基づく更新費用の削減目標

- ・施設の更新に必要な約 66 億円/年に対して、充当できる経費は 24 億円/年（「豊岡市長期財政見通し」（2025.8）から試算）と見込んでおり、この不足額を解消するためには、長寿命化とあわせて、今後 **30 年間で延床面積を 37%削減**する必要があります。

現状維持（建替え 60 年、大規模改修 30 年）



パターン別の更新費用の試算結果

パターン	条件	1年あたりの更新費用	今後30年間の更新費用の総額
現状維持	・建替え60年 ・大規模改修30年	66.2億円	1,985億円
長寿命化	・建替え80年 ・大規模改修40年	38.2億円	1,145億円
長寿命化 + 延床面積削減	・建替え80年 ・大規模改修40年 ・延床面積37%減	24.0億円	720億円

#### ○ 本計画に基づく更新費用の試算

- ・長寿命化とあわせて、本計画に基づく取組みを着実に推進することで、2026~2055 年度の 30 年間に必要となる公共施設の更新費用は約 28 億円/年となります。
- ・公共施設の更新に充当できる経費は 24 億円/年であるため、なお 4 億円/年の不足が生じる状況です。建替え時における減築等や第 3 期計画以降の取組の推進が不可欠です。

### 4. 計画推進に当たっての留意事項

- ・まちづくりの推進や地域の活性化に資する施設について、市民ニーズに応え、施設サービスの向上を図るため、機能の強化や充実を検討します。
- ・継続する施設については、より効率的・効果的な管理運営を図ることを原則とします。また、余剰スペースは、他施設との複合化（多機能化）や官民連携（PPP）手法の活用による有効活用についても検討します。
- ・建物の新設は、必要最小限とし、複合化（多機能化）等を意図した適切な配置を行うとともに、地域性についても配慮するよう努めます。単独で建替える場合は減築を原則とし、規模の適正化を図ります。
- ・普通財産については、売却や貸付を進め、地域に必要な民間サービスの誘導や自主財源の確保を図ります。原則として修繕や改修等は行わず、老朽化により危険性が高い施設は速やかに解体します。

#### 【お問い合わせ先】

豊岡市 行政管理部 資産活用課

〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町 2 番 4 号  
TEL : 0796-21-9129 FAX : 0796-24-5932  
Eメール : shisan@city.toyooka.lg.jp